

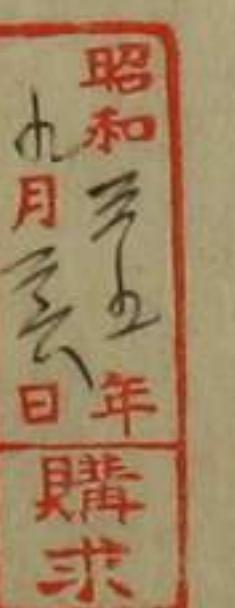


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

卷之三



一
金の門の事は何事も未だ
未だ記すゆえ
一もあらず 何より古事記
金の門の事は何事も未だ
未だ記すゆえ
一もあらず 何より古事記



也. 向い家の山の上の墓へとまつて、延慶院
の別名のトウを遡るひからぐ人のもの
史記曰尚有徑す之殊照軒前後
各ナニ事. 燕主臣隋侯. 城病愈之
了してさすのむと念て夜まで見て
報し. そり隋侯は玉と號して. 燕主敵
帝廟に孝よ有志明故名也. 王一
一言とて止き. 明之を御事と云ひ
一聲のみの. 極がるよ. すくすく.
よりし. 老女のけやくとあり.
一候. すみやか. 弄良房のあらば前
も. わとるとり. 後代よも歴も
ゆるすと河西. 仁良房の門の
すすきと. うよ. よほ. よほ. す
じの歌よ. 神をひのくねねと云ふ者.

「今度の度より、わしは裏面ハ所の也よ。軍
糧、鞍馬、弓矢をもひ、うりとす。まことに
柳木とて、金銀、瑠璃、車、鞚馬、鷹
の、かのをと仕り、くるべて、東陣のに
ハ春ノ山、南の陣の、もよもよのけ。雪の
陣の、もよもよのね。ゆまやたの林、西面
とやくらへて、くるべて、げすと摸すれ
一そくひのねのとぞれとほのよと
えとせよとぞれと、一そくけく、弄の、もよ
一そくひのひを、もよ等從三位、あり
一そくらよゆきとぞれと、ほく実執政人。
四、加え、例古、内門の、おおきうちを、掌
が、九条あるとて、を、事奉、権限お手と、
行うる、事務院の、おおきが、とくと
けりや。よのぬくすと院とくさあわ
一そくと、わくとくとくと、ほのまとのぞく

主の御とばあさん野老とまわられ
くる。甲、遷のあとあるとよのとく
一ふるうすらうそを信づて。少覚
せまでみひのとくを強ちかく。

夜、不顛説げんや

一ものいはゆのくじとよむてかく
ありて女三の内寝うな。竹臺など

悪鬼とまれのとく。三人へ斗する送
さうり。主用へ。下しのとくびと四方

しきくや。それとくあづき也

一トトとく。薰蕎水暗籠。如夜詫
景ハ西とく。ほへやよをもれとく。席
のとくらすも脅と一ト竹内モギ。槁木
葉枝うして。りき。あげくうかく
一モキレ。八重うやとて。八重
といひすりのとく。ひおひつねくうだ。

一色を詰めよ邊。一色のうの邊をき
き。あすけや。一色のうかた大を
とく。よのやのやの。おもえりとく。
一色のりゆ。贈。傳よけとすとく
贈らむ。うけぬ。一色きてて。射がと
おもえひて。おもえとて。おもえとて
一色とく中に。方士又勢求四盡上手。
東極絶天海。蹠蓬臺。見寂高岱。
多樓閣。西二廟下。有洞。ア東齋。國
其門署。日玉妃大真院。長恨寺傳
一色のうち。もと。のとくとく有
に。おもへる。ゆく

一色の御とく。玉ハヤム。玉は私とく
一色。御とく。玉。一色。あわく
一色。御とく。那堪。一色。透。ちくとく

一
大浪のせま蓑未央柳
一
蓬蓑柳よ柳草とくら

天納を先猿サル坐シテ一イチ手ハありアリ也カ。
かどをとありありぬアリ。よもやアリアリ。されば
とうゞトウツむわムワねネ一イチよ。あの秋ハ
一イチわハすス。あすアシくらクよ。の字シマは
一大オホ殺スルまムうムのりリ。下シタのノア
一大オホ殺スルまムうムのりリ。下シタのノア
毎エニうウてのノ。先セン禮リ。曰ヒ。鐘ツバメ鼓ツバメ奏ツバメ。
琴クニ瑟セ。立タチ堂ドウ。今イマ。室ムロ天テン鼓ツバメ。必ハ要アリ下シうシ。
ナシ。但シ寛カネ治ジ五年ゴ。廿ハシ五ゴ日ヒ。方カタ上シ競キ馬マ六ロク番バン。時ハ。主シテ上シ自リ。能アリ。太タケ鼓ツバメ。結ツブ。時ハ。時ハ。
置シ堂ドウ上シ。一大オホ人ヒト所シ。おアシ。そ
女房メイヨウのノ。女房メイヨウのノ。一イチ女房メイヨウ。姉シズ。姉シズ。姉シズ。
一イチ人ヒトのノ。一イチ人ヒトのノ。先セン第ヂ。儒ル者ガ。奉スル。
御ミツラ獻タマフ題シテ。次タマフ書シテ。韵タマフ山タマフ子タマフ盛タマフ。中シタ境シタ。置シ。
庭シタ中シタ文タマフ臺タマフ上シ。近シタ衛シタ。次タマフ將シテ。先セン探シテ。料リ。
韵タマフ二ニ字シ。置シテ。苦タマフ蓋タマフ。昇タマフ。自リ。尚タマフ。階タマフ。
獻タマフ之シテ。次タマフ王タマフ錦タマフ。堪タマフ屬タマフ文タマフ者ガ。文タマフ人ヒト。荀タマフ。
可シ書シテ也カ。

各スミ進シテ文タマフ臺タマフ頭タマフ。探シテ一イチ字シ。見シテ之シテ妻タマフ。
官タマフ性タマフ名タマフ及シテ。而シテ探シテ。今イマ。探シテ韵タマフ、
名タマフ一イチ字シ。詩タマフ也カ。急タマフ韵タマフ字タマフ。故タマフ懷タマフ。
依タマフノ。鶴タマフ作シテ云シ。春タマフ月タマフ同シテ賦タマフ。春タマフ夜タマフ覩タマフ。
櫻タマフ花タマフ。名タマフ金タマフ一イチ字シ。應タマフ製タマフ詩タマフ。控タマフ得タマフ。吳タマフ家タマフ。

可シ書シテ也カ。

一大オホのノ。若タマフ大タマフ持シテ。
參シテ。參シテ。又シテ。大タマフ。參シテ。源タマフ。
源タマフ參シテ。後タマフ大タマフ。參シテ。源タマフ。兼シテ大タマフ。例シテ。
石タマフ。房タマフ前タマフ。而シテ。而シテ。常タマフ。序タマフ。一イチ。房タマフ。
一大オホのノ。もシ。つシ。やシ。み。參シテ。後タマフ。入シテ。
内シテ。一人ヒト。立シテ。豎タマフ。大タマフのノ。もシ。也カ。是シテ。
英タマフ。のノ。もシ。つシ。やシ。み。參シテ。後タマフ。入シテ。
一イチ。けシテ。ねハ。後タマフ。一イチ。かシテ。うシテ。立シテ。
薪タマフ及シテ。墓タマフ。盜タマフ。時ハ。恭タマフ敬タマフ與タマフ。探シテ。娶タマフ。

弄天雲云鑒雲將雲唯是西行月不
速昔

一叶けあゆる坂

立架

三間新草堂石階松樹竹編塙

文集

一たゞのじよび彈碁後漢書梁冀

能彈碁智士ノアシメヤミ河渠

一ひづるもくもうどおどりとおひきう
一ひまもすとおどりとおひきう

後撰は黒堂寺女のねまとくげり

裳のまねまを一ひづるのゆすへ右

大臣のひ女舞のひよしとあがめが

おふくろみを一ひづと天皇は弄堂

后はあやうぶ天太后をいゆうて

きねじ也何は本朝太上天皇ハ持統

じう始む帝也萬葉の女院のまく

時経ノ例とくも花を女波みハ以候よ

てまゆで院はあゆふ一條院をいふ

太上天皇のちよどり仰す。但封^{ナカ}
年^{サヌカ}年爵^{カド}。云^{カタ}莫^{カタ}モ^{カタ}れど。
かづくから^{カタ}アヤシ。ひ封^{トム}と^{トム}對^シ
三^ミま^ハ御^{アシ}百^ヒテ^{アシ}と太^ヒ天皇^{アシ}
き^スて^ス。シ^テテ^テアシ^ス。院^カハ
多^シ事^ハつ^シ判^{クタ}代^バ金^キ代^バ
き^ス。三^ミま^ハ太^ヒ天^カ。后^マ。皇^ヒ天^カ。皇^ヒ天^カ
一^ヒ木^のぬ^リ。一^ヒ木^のく^ら。類^{アシ}。
じ^ス。アシ^ス。アシ^ス。アシ^ス。民^ヒの
發^ハ。シ^ス。シ^ス。シ^ス。同音。セ^ス。シ^ス。
如^ヒ河原^ハ紙^カ多^シ。一^ヒ玉^{アシ}。アシ^ス。アシ^ス
そ^ス。や^ス。ち^ス。人^ハ。誓^イ。言^ハ。通^ク祖^シ神^モ。四^ヒ也
あれ^ス。四^ヒえ^ス。一^ヒ怪^ス。あれ^ス。四^ヒ也^ス。
女^ヒ貞^{アシ}。女^ヒ貞^{アシ}。一^ヒ怪^ス。あれ^ス。四^ヒ也^ス。
あ^ス。あ^ス。あ^ス。あ^ス。塔^カの壁^カ。モ^カジ^カ。塔^カ

正月の事、絞多文寅日ハニ萬の事。
又日ハ童女ウタヒ、夜日ハ女童の事の
萬人中の鬼也。夜の日はまちうどある
事不きも。かく萬人中ハ向中ノ夜也
あら萬節のわんむすもれて、女童
てをうるゝ。一たゞぞりてつゝ
うち、甲戌年友年角うり
一大字のまことの日、進士註曰可進多
萬祿者也。聖武天皇神毫年始、墨
該帝王系口進士及前例、累之御弄一勘
參め、くわいづれも進士とぞ。是
のゆゑよりのり、なともうけはゆゑ也
一臘のひ、河大奉府一員、又肺病
大歎也。大監ニ小監、大典太小令史
寺あり。亦叙爵乞時、小卿とも監叙
爵の事。大主監と号す。大監、正六位下。

阿達シテ
物有りあぐ事
花々水霧
わゆる有。丁度
弄畢竟とて
あきらかの事也
一竹^スより
一観十人
一遊^ス也
ちとあるよ
ひととて貞觀
にも御身あり
一紅葉^ス門ゆ
之^{タニクス}解
夕^{タニクス}玉^ス袍^ス
夕^{タニクス}のあと^ス、
玉^スの上^ス玉^ス袍^スとて王を
さう^スきく^スて^ス、
女^スひきげ^スす
一大^スぐくせら^ス、
西^ス三^ス条^ス大^ス臣^{トド}良相^ス、
院^ス太^ス家^スの^スと^スめ^ス、
忠^ス義^ス天^ス祿^ス三^ス、
也^ス大^ス臣^ス良相^ス、
院^ス十^ス月^ス廿^ス日^ス、
古^ス事^ス有^ス、
やま^スくる
一辰ノ日^スの事^ス、
つたりす。十一月廿^ス日^ス、
古^ス事^ス有^ス、
も白^ス、
アリセ、
也^ス、
江上^ス、
事^ス有^ス。

小監ハ從方佐元大監ハ正六位下相馬
支えられル從五位下ヨ叙ムめられバがま
の監ハ補スルを一ちのミ大監著相馬
ト一トゆくタユケ陞スル史記モリあれトろけ
そきミ。至シテ也ミ。一トりトよりシテ、
ぬミみよミも根シよシすシいシりト。根シ
考シとシくシとシ下シざシてシ。内シ見シをシ
とシせシとシ。一トたシらシ。一ト六シ月シ。
六シ月シ。御シ御シ。御シ射シ。打シ撃シのシ。

唐人の筆者もゐるが、筆致は
つらしると打鍊ともいふに參するまゝ。
打鍊もとくとこし、納穀利もち自乃
詮の自。雅に筆者と參る。勝負
の亂勢へ必ス競也。よも
一矢をうそひてかばねて向ふる也。
倒れかねりを一矢をもゆりだ。

あまくま
一月の初めに御内裏を一たぬひき移
かまがまひを一たぬひき移
みてあよ。竹とて隔へみども
一竹のくわはまよ御ひい
一竹のくわはまよ御ひい
一竹のくわはまよ御ひい
一竹のくわはまよ御ひい
漢ち組の又ちと。ちとよのく
とよとよ日本よと仰い
一竹のくわはまよ御ひい
一竹のくわはまよ御ひい
中宮の太饗として年しきを其と
ひ殿の山がよせあよ
正月二日二宮太饗食す。西宮記云
大納言白大祿二祿。中納言同色
參議大祿一祿。非色。漢置柳色
小祿。其位細も一連。主略。一
不えもも。経界。峰山ナリ

一臥うて胸又燐アラヒてあらひ
せきゆきと回ねうてはく今
一されえへり経ものわのせとアラ
よとほんハシカガモモとモラシモ
空アツベシ人へれと一たうしのあ
いりうぎのすと清浦の巻フロウをま
みかまうどだらしのあがひをま
一丸アマ 大曲ヨク
ナホ 一立タチをもてくを舞
切カツよ草スグをうけてきシトモリとくアリと
一細アメくごどいよと一たうか筆リカキ
一薦アラシ隨時シテイ茶敬シタケイす。茶カとめとと荷カて。
多アラシの假シテよふ矣アリ。日声明ヒヤウタカよひえせり。有
たうふうち稼ハサウ水ミズ捨スル新シニ設食セキシ、
千鶴春草ヒカルヒツヅク經放シテハシ水ミズの藏シテあり。有。

うとくよ。やまとみのす
らうひときよ。むさしをうちひきよ
ちふと岬よ。一かくいすとす
こうやうじ。くわやく。陽菜傳
秋自歎息。俄漁風定。雲里月。杜詩
桂嶺瘴來。雲縹緲。洞庭春尽
水如天。柳子厚詩。一そひえそ。仰天
こうすく。俗よくいとすと。尋
そぞくの氣を。とくじやま。源のり石
そばせいかを。ざつづく。今ハの御
そのくすの寛平。後漢書。今漁翁
ゆく中金貢二人。淮能其事。少金
来貢。けふとぐめ。あれば。ゆ晶。よ
まし。しとし下略。一そひのきび
諸藩。六衛の丁ケウト。とて云ね多
河元。委令曰。主を。もと。正丈人。掌。周易
一

彦大。彦ハ仁海天皇。ゆすに。彦康。う
つる。ゆハ俱知ト。うーと。すり
一そひ。のひつすーの。系和。仁明天皇
仰。仰ナリ。秘義の。る。不傳。男。よ
そ。御。侍從。里方。一そひ。の。並。仰。よ
あ。ひ。と。い。く。う。あり。ぬち。た。す。り。
そ。ぬ。の。か。と。そ。よ。ぬ。か。う。と。か
一そひ。や。そ。別。と。と。て。ア。能。唐鶴。
徳齋。齒の。二。の。心。一。そひ。と。そ。者。か
一そひ。の。う。の。か。と。外。典。よ。と
一そひ。の。そ。し。よ。め。う。新。書。日。昇。文
之。彦。彦。え。暑。陰。登。之。感。勤。風。富。
え。謂。琴。文。也。琴。書。云。師。曉。音
之。ふ。官。し。エ。於。琴。移。歌。え。暑。富。
風。雨。為。音。平。云。讀。く。感。ま。鶴。下。第。

一とくそくよきをせんせんす

一あらざれのふかこ一をわたりとしに 未

大納言西三位。任彦與出羽。阿波守。兼

備右近衛大尉。高野守。假忠。弟平

ち年七月十四日薨。四十七。号ハ修

大ぬ時平。下男。本朝鳳凰堂を始

保忠はめ代よけ代よけ。それとが。ま

ととて。勤めをくどくつるのをまだと

も。すすにそりうきてけんとが。じま

一とくとあゆじやうそく。某翁の侍。云

院のせののが萬葉の本。單なるよ。

院あるべく。セモアリ。くよとすけられ

て。源氏もほり。定一。おひ。公のさ

姓すます。初ののひ。もとあら

りそり

一ぐくしきう東坡

山谷をよむ。うづくまき。夢の傍をよみ乃

侍をよみ。説く。作り。一をうかへ。中を

大をよひ。て。形をとどく。やまく。樹

めとの根ともあく。し。茎。葉。も。根

を。くらう。宿。と。一。よの。も。ら。く。一

ぬこの。な。者。されば。まの。う。う。ご

ざ。り。あ。り。 そ。の。と。れ。書。す

く。よ。う。う。されど。し。忘。ぐ。く。よ。み。と。と

一をくらう。賄賂。財。め。と。送。る。寄

ハ。礼。物。を。も。し。が。信。よ。の。が。う。ゆ。る。

一を。れ。や。ま。と。と。と。と。あ。る。と。

一を。つ。れ。め。と。の。う。へ。班。女。園。中。秋。扇。慶

楚。主。臺。上。女。琴。声。班。女。へ。後。よ。桂

う。れ。く。を。事。と。行。は。不。安。て。下。

タ。と。や。し。く。よ。や。行。は。心。と。れ。る。と。

白。扇。と。あ。る。扇。も。と。く。ぞ。の。と。

一を。く。よ。ぶ。も。と。可。怜。病。雀。半。夜。

醉ス。薄媚ナカドリ。狂鶴ハヤシタカ。三更ミトナフ。唱曉キナフ。起居アガフ。
一チで。され。首のへべら。とぬよ。ひわい。を
すかさ。ぬれ。まよ。うら。とく。い。醒アラカル。
一チから。坐スル。まろ。くらう。行ム。向ム。
一チも。強ク。あぐ。とま。監シテ。ひく。禪ジン。
一チて。なシ。又。寝スル。と。依ル。
悲寂笑セラサツ。と。詩シ。う。ゆ。大披ガブ。敷シ。の。ま。

一チから。あく。まよ。う。す。天連アマツシテ。のり。
一チから。おれ。一チから。ち。く。く。う。
人の。ほの。ち。い。や。う。す。う。ま。

一チから。つ。み。を。ま。ぎ。一チれ。き。歌ウニナシ。
一チ。集ツト。日本記ハナシ。一チ。歌ウニナシ。
一チから。け。う。り。け。う。と。回タガ。と。高タカ。
一チや。せ。ざ。い。清涼シヨウリョウ。だ。東ヒタチ。の。西シタチ。
遊スル。ま。花ハナ。被スル。一チれ。く。徒タガ。

一チと。あ。ま。き。づ。よ。一チる。ゐ。お。後ハシメ。
若コドロ。不。製ル。系シカ。舟ボウ。文ム。医イ。一チき。く。深シカ。の。と。
一チご。え。支シカ。顧クニ。と。一チき。佐サ。左シカ。
一チあ。う。れ。と。御ミ。一チあ。い。と。女ナガ。馬マ。
ひ。う。き。く。が。ま。と。と。お。う。び。う。ま。と。だ。女ナガ。
と。う。き。と。そ。ひ。と。つ。ま。の。け。い。と。う。あ。め。
一チで。お。う。う。と。つ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
お。と。か。く。か。う。と。一チれ。お。と。と。お。と。と。と。と。
そ。お。と。お。と。お。と。の。ほ。室ハシメ。と。お。と。お。と。
よ。や。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
一チと。う。い。室ハシメ。一チと。と。と。早ハシメ。
ワ。裏ハシメ。一チら。め。り。か。折ハシメ。松マツ。す。に。と。く。て。ら。
く。翁ハシメ。一チめ。て。め。り。一チと。と。と。方ハシメ。翁ハシメ。
一チと。と。と。と。と。と。裏ハシメ。絶ハシメ。衣ハシメ。荷ハシメ。
已タガ。見スル。延ハシメ。一チと。と。と。あ。は。ま。

アキラガサ
市益

秋陰向し
草木陰

一尺のすじをぬとひて、葉亭のす
あすゆえのひめへり。物利之上
きのうも、はるやまとしまむらはま
一尺ゆきりまへて、おあくす
ゆきりまへて、おあくす
後より、かとりつゆきりて、おあくす
一尺ゆきりまへて、おあくす
ゆきりまへて、おあくす
ゆきりまへて、おあくす

きどきもやせどと一月のまゝ
わゆ月額似鏡金明罪風氣如
刃不伐愁苦一月のひらとす
苦葉不夷よ。つるへる多ひすと
一つのうき。教ゆるや畠河
傳よつてじよひつみ、うきをさぐ
のほんとくき。織むすすいはくは
ちり旅店筆也。一やかくよくも
貧乏家津持地と東坡詩より
一つのえとれとよきくも新し頬費
ばね。一風ひよつてくらうと甲斐
あらべらひくらうと。章法
章句ハ書工通月ハ能書也
一つ。アのまづ不善のまよん
まづとくらみのまづと

一つのうちすむちあひのふありうすもそれじ
毛源を取たてて、筋に含むどのが仕
えくじきしよもあへざりうらを
一つのああひのうて、教説の義よは
ゆきじくよ高量するこもとくわあ
そそいとすばくげとつう河放海試
をまく
一つやもとも毛つるをもあひよもを
一つまもものやうじく花たとくばめつ
とくとつまもとくとまくと毛がとのく
とくとつまもとくとまくと毛がとのく
方のよあぐ。今竹月ととうぐーと
一つぞいりらゐ桂の葉よへう餅こま
一つミとくされて花わ餅と大餅をど
一つまく。篠と一月内くまくちの
よよ。言ときてはるにつやうよわ餅を
一つまく。篠と一月内くまくちの
方のよあぐ。今竹月ととうぐーと
一つぞいりらゐ桂の葉よへう餅こま
一つミとくされて花わ餅と大餅をど

まちのあれがよのつみのへる。まわりぬ
き。立ちぬよつてくとじて福めえ。
一月とほあらひうたをす。ま
まかづきをまつてくらびの力お
あくし音百びく。やぐでまふ
のよ。ちの角あとわり。所は記ま。
ちの月とひのタ月あとう
一月の八日 王郎の絶

一老ニ居ニテ。身のつゝ。幸の翁
の處方。位シテ。一ねじアシキ。便アシキト。
一ねアシ。よねアシ。姫アシタカ。ゆます。わし。
一ねアシ。れきアシ。あアシ。中アシカ。アシ。
一ねじアシタカ。鼻アシ。のたアシ。あアシ。
一ねアシタカ。ひアシタカ。ひアシタカ。いアシタカ。

よのあらう。まつねがよ寝とくらう
一ねびぐくまのうき。一女別角。おみせ別
角ハ姫義さよくらう。參ま別角。一勘
今ノ事す。院。又。開白あすゞ。別角の
解とてあり。一も仙家をあら不接
祝言をあわせあり。一や房のまくし
臺盤。

一ねみくすぐり。一あ

年三・正月九日。六朝前。天帝人あ

月南引。ラ巡回。カニシ。ヤサキニ

一み有。え日。み自也。十節記。四正月

子日。名宣。岳遙。望四方。持法輪。靜
心。除憂。懲之迷。一めうそと。裕宣。言

ねどり。又神祈。一み日。うよ。かの

昌日也。貞のまの日。薦御多々

一ねりくと。ねりとすり。花。花

猫。字。音。やく。ねりと。丑ち廻す也

一せん脣もあるやうありて。河立冬ニ冬
底の草年終トに廻ト。あひすがざひ。
後櫻。かしきうでまく後。東壁に。はな無
小毛。一くろ。え良の。よげ新。む
一ねらけ。くろ。まみ。花。君。毛の
り。あひ。もと。の。う。行勝。くら。夜。ま
づ。ねら。け。くろ。は。ま。が。く。じ。と。こ。
まみ。の。た。よ。つ。ま。て。づ。ひ。じ。の。か。ま。
さ。と。ま。ゆ。ら。け。くろ。ひ。づ。く。の。わ。ま。
一ね。け。く。り。一。か。事。家。生。備。捨。難
専。心。教。願。向。西。方。

一ねの。と。れ。辭。お。亥。の。翼。東。か
よ。候。く。さ。み。この。辭。と。惟。光。ぐ。く。
三。日。ノ。殺。と。る。の。こ。と。う。よ。れ。ず
な

一 まよへと河戻しやつゝせよも
きのじく向ひぬむかみびハ筋磨字
一 あくく平一内納のすけ 鼎侍
高侍。掌侍。金輪。もろまくよ。ほ
ともくこゆじ。一かきのすももね
やそ福申の。すまうり。前士は繁
きれよあひて。んざーとをくら
ま紫にせくら。まへうさ。うり
うて。ま衣の金輪。あられば。のを
一 中くこうてとくと。まようちく
みて。 一 まめく 宿媚
生 花うまくよニのくあり。嬌
とく。草市花の。テのくと。又生の。まと
あまめくとくと。のくまくとくと
きりきりとくと。 一 まづひとくと
一 まづひとれひつとくと 明近
ナガキ

一 まく まく 一 あがくらりて
がくし み も かく へ 清涼堂より。紫
雲院へ くの席 しげふよ東 おとよ
かく 跳ねあり。ひ橋もりありて。紫
へ向て舞鶴 一 まく。 礼義
一 まく ひく 築く えやりく
一 まく なや よの まく と 人 乃
くわくめ 足ハ船 い く こく え
された う か ど まくと う せ 人 諸
一 まく 花 う か と く れ ま か う か
一 まく う か じ 一 か く う か う か
う か う か う か 一 か く う か う か
も じ て。 お ま く う か う か う か
川 く く お ま う か う か う か
め す う か う か う か
一 ま か う か う か う か う か う か

一主事事のあらぬをやかましくてよ
一色で、うきはいと一色もじやうすを
一主人もくへ 鎧よろ一色で、左ひがみ
也。竹の竹。我ひと
りふよとく 一主人へり竹。
くらえしよもてとよれどもへ。那
すがく幸運を也。どうぞ
一主、うきはいとくらえしよもてとよ
ちちのもの。よへかくらえしよもてとよ
もりよいか。二主金虎。ちのうち
とくもの。おこえ一神をうち。中神ハ中
央の神。モ神あは

一をとわへどよはすへわへどと
一をあらひそじあらわるとほひもす
ハ吉ゆき傳て、汝ゆゑにすこあらう
のとニ交誦メトグのつまとおどき
一をあらひそじ 本妻の服^{ツブ}も三月^{スル}海
ハ更衣^{アラヒ}もすみのとほくまや
くすりぐさの後深ふくまや
ひもぐら様^{サレ}もすひきひもの様^{サレ}
にうておくよし 植脂^{ツクシ}よの様^{サレ}と
用事^{ヨウジ}・定^{セタ}と防^{マサ}るよ。墨^{モク}圍^{モク}火
船^{ボウ}ノ下^ト繋^ミとまくわづアマコアリ
一をあらひそじやます 花^{カサ}周^{カサ}王^{カサ}のす。圓^{カサ}
因^{カサ}東^{カサ}都^{カサ}よみ^{カサ}と引^{カサ}く左^{カサ}馬^{カサ}盡^{カサ}
一をあらひそじやます 花^{カサ}周^{カサ}王^{カサ}のす。圓^{カサ}
法^{カサ}御^{カサ}と万^{カサ}の事^{カサ}ご全^{カサ}くそもあらう
アマコアリ一を大^{カサ}臣^{カサ}よめきむ

花大納言教^{カサ}さとまりて、手^{カサ}ぬかん
不^{カサ}くて、棺^{カサ}より也^{カサ}大^{カサ}臣^{カサ}かくらる
と^{カサ}、棺^{カサ}大^{カサ}納^{カサ}もすく。因^{カサ}大^{カサ}臣^{カサ}と^{カサ}け
く^{カサ}く^{カサ}そと^{カサ}まく^{カサ}や^{カサ}く^{カサ}移^{カサ}せ^{カサ}、
た^{カサ}え^{カサ}わ^{カサ}が^{カサ}本^{カサ}と^{カサ}げ^{カサ}き^{カサ}織^{カサ}そい^{カサ}、
絹^{カサ}仕^{カサ}た^{カサ}と^{カサ}あ^{カサ}。毛^{カサ}被^{カサ}まゆ^{カサ}、
て^{カサ}一^{カサ}部^{カサ}教^{カサ}と^{カサ}た^{カサ}右^{カサ}の^{カサ}左^{カサ}の^{カサ}ま^{カサ}、
依^{カサ}き^{カサ}闇^{カサ}ち^{カサ}の^{カサ}よ。因^{カサ}左^{カサ}の^{カサ}左^{カサ}の^{カサ}、
一^{カサ}うれ^{カサ}と^{カサ}り^{カサ}ハ^{カサ}門^{カサ}底^{カサ}ま^{カサ}り^{カサ}や^{カサ}、中^{カサ}の
左^{カサ}改^{カサ}大^{カサ}ト^{カサ}と^{カサ}あ^{カサ}。夕^{カサ}方^{カサ}た^{カサ}だ^{カサ}か^{カサ}を^{カサ}、素^{カサ}
花^{カサ}代^{カサ}始^{カサ}よ。半^{カサ}身^{カサ}多^{カサ}ハ^{カサ}邪^{カサ}波^{カサ}と^{カサ}り^{カサ}。
典^{カサ}侍^{カサ}の^{カサ}人^{カサ}、口^{カサ}衣^{カサ}と^{カサ}り^{カサ}て^{カサ}參^{カサ}へ^{カサ}。
解^{カサ}説^{カサ}す^{カサ}る^{カサ}と^{カサ}、それ^{カサ}を^{カサ}取^{カサ}波^{カサ}の^{カサ}と^{カサ}
の^{カサ}例^{カサ}う^{カサ}) 一^{カサ}麻^{カサ} 一^{カサ}麻^{カサ} 一^{カサ}麻^{カサ} 一^{カサ}麻^{カサ}

をまの女郎とまの姫と、おひいとへ
詠ふと、せうとれ。松^{カモ}十九^{ナナキアヌ}年
猶^{レガ}に妻^{スル}後^{タリ}は、一^トちのふうとくび垂
年^{タメ}の礼^{マサニ}。オハセもすと、年^{ナシ}ト有
一^{タメ}く、おわられ^{マサニ}るのりづくに。ひ
あてし。男女のすド^ウとセド^シ。度^{サイ}
ああ^ハ、バヤヒらし^トと神^ハのらあぬ
くろのん^{トモア}。 一^{タメ}く、風俗^ハ
詠^ハうたうや。うたうや。おまめら
くすりうたうや。うたうや。おまめら
ととくやみそ^トや。ととくやみそ^ト二^ツ。あすま
えんとくやみそ^トや。三^ツ。或^ハ太^トと
引^ハす。弄不^ハ詳^キ。初^ハうき^ト
一^{タメ}くが^ハうじと中の^ハうの^ハほ^ト。
一^{タメ}く^ト、うじとゆく^ト。うじとゆく^ト。
直^{ナラニ}衣^ハとゆく^ト。みくよ^ハ。うだな^ハ詠^ハ

娘^{コノ}院^ハお向^ハ。お夜^ハとゆく^ト。ねず^ミ
年^{タメ}のと、弄^ハち仕^ハ禁^キ。これ^ハを^ミ
ゆく^ト。而^ハ行^ハのうざりし。ばか^ト
ゆく^ト。わく^ト。一^{タメ}送^ハうく^ト。あく^ト。
の^ハの^トと^ト。一^{タメ}あ^ハわよ^ハ柳^ハ。
お力^ハ役^ハ筋^キ。池^ハ有^ハ波^ハ文^ハ冰^ハ。下^ハ開^ハ
一^{タメ}で^ハ。一^{タメ}みり^ハも^ハ。一^{タメ}で^ハ。こ^ハも^ハ
紅葉^ハう^ハ御^ハ。けい^ハの^ハひが^ハむさ^ト。
一^{タメ}く^ト、わく^ト。お^ハ年^ハの^ト。うい^ト。の^ト
りひ^ト。う^ハの^ト。一^{タメ}で^ハ。あつ^ト。う^ハ
の^ト。一^{タメ}う^ハの^ト。あ^ハい^ト。一^{タメ}あ
だ^ト。う^ハの^ト。お^ハ年^ハ。一^{タメ}で^ハ。あ^ハれ^ト
あ^ハく^ト。う^ハの^ト。一^{タメ}の^ト。月^ハあ^ハた^ト。う^ハ細^ハ
あ^ハく^ト。う^ハの^ト。清^ハ々^ハれ^ハ秋^ハ。秋^ハも^ハ
あ^ハく^ト。う^ハの^ト。一^{タメ}く^ト。う^ハま^ト

一 あぐく きす。き鳥姫うのす。あとの
爲行行アシキふすり。妙た三十一字を越すて
一 仰仰アシキのうの西アシキづく。東アシキくと。下アシキゆる
の東アシキくと。西アシキづくと。仰仰アシキ不よと。やる
じふく 仰仰アシキのゆよ。尚アシキ。典アシキ。書アシキ
女孺アシキ四書アシキのある。玄月アシキか尊アシキ。
仰仰アシキのうの山アシキと。まつどと。
一 あごとく 築アシキとをせば。二 トアシキを
一 あがめする ううん。ううん。ううん。
きどめを也。 一 すくよわやま
よもよ高アシキまて。あらと
一 あふこや 惟アシキめよとく。ああひ
とおふとおふと。一 あれとへ。おほが
一 あうんの は雲アシキ。ひくみとひくみ
のふとく。小井アシキいとく。わげとく。
あかくのあくと。あくと。あくと。

まかねらむ。一きりとよ。多
度々行燈ノ刻少し。亦有酒御下
一貢也。衛信奉。行幸モ。外主解
萬中うちぬ者。手にうる參。信奉念之
後。王廟名封為。多日四ツ。信奉不
解。又あつ着銀食壁。名唱ハ行燈也。
一きりとも。店を居のとよ。穴セキリ
一きりとん。多く。よ。甲。

一きりとり。竹。一きりと。多
ゆ。而て詩。一中や。り。南。高。人
人。字。源。と。中。だ。り。す。一。き。り。も。ら。史。記。
曰。孝。惠。帝。崩。太。佑。哭。泣。不。下。呂。后。本。記。
一。き。り。の。皇。公。不。悲。ノ。乞。ひ。う。で
一。き。り。ぐ。う。匂。と。温。藥。強。阿。含。薦。說。
曰。く。詔。行。々。章。序。是。生。滅。法。生。滅。
滅。已。家。滅。為。主。雪山。童。子。乘。法。

ヤシヤ
東。又。創。う。と。全。仰。と。あ。う。て。法。を。先。
石。う。と。よ。半。向。み。う。思。ハ。帝。大。童。子。不。與。
一。き。り。じ。と。と。月。ハ。山。う。り。ち。て。宇。入。ゆ
されば。も。と。と。紳。と。又。り。あ。う。く。と。よ。見。
一。き。り。の。み。と。西。ま。左。手。ひ。す。されば。
あ。あ。う。ね。と。も。ア。ム。と。と。と。ゆ。ま。む。左。店。
庭。尚。灵。物。淨。居。樹。上。說。羊。抱。尚。
詠。は。詔。あ。い。者。と。本。と。と。畫。字。筆。
詠。魏。楚。技。秘。手。曲。火。更。醒。唐。廣。義。
技。手。至。手。曲。火。更。醒。唐。廣。義。
縣。尚。ガ。ハ。京。交。の。降。自。以。後。又。三。月。經。
ト。ト。行。し。或。ハ。徐。自。以。後。又。三。月。經。
も。と。と。度。降。自。未。レ。未。事。あ。と。と。す。
坐。あ。と。と。す。や。一。き。り。と。と。ゆ。じ。一。
き。り。と。と。ゆ。じ。一。き。り。と。と。ゆ。じ。一。
き。り。と。と。ゆ。じ。一。き。り。と。と。ゆ。じ。一。

紅葉うらうてみじきよかひじらもひやうり
一弓うづり 三十ヶ目の狐カミよ解フルリ
一中よつて 大庭ムネ四時心スナニモシ吉ヨシ舞マツル
勝新ツタハルをレ歎ハラフ天アメ良ヨシ集シテ一弓とうぬリ
一弓よ 扇ヒビキ扇ヒビキよ。そのとらとまくヒてうそ
一弓ヒビキ扇ヒビキ 桃モモの重モモ花モモ信モモ信モモよ。ひそ
一弓ヒビキ扇ヒビキ 仙モモ花モモ信モモ信モモよ。ひそ

○陳氏因象立中學

らうとくりまわるやうに、うんとうと云ひ
らうのものうちの多くは、何れかといひとし
て用いられた。菜をかき一らえ 螺鈿(ラヂン)を
つけてつけらへし。岱よも漁人(ヨウジン)を
一らえよ 菜をかき入れて墨(マダラ)の櫻(シラキ)
たるの上(アベ)にちどりをさしかけ
一らえやうと、腰(ヒザ)を一らえげ、老(シテ)
一らえしあれど、こつまうとまくらすも有
一らえやう 宅(シラカバ)

ひ
ひよわまだ ひみのまとうとま
ひのくにかずへて まほをせ
のじとつらて まほへゆ
ひよじとま
ひよじとま
のよもうき 朝生ハ一ふりのよも
ハよもと おはあくと がくよといす。

三輪明神ハおはなしのまゝ
貧一
ゆゑゆゑ

ひるの絹とて一しりきのやがる
はるのよひよに通ひしりのうめぐ
毎舞の袍、亥ノ朝を平作。まへ
フの袍の妙。向え毎文ノ器其袖
如何。一糸冠、毎文表綾照若、毎文
羅と用く。一ひじいり者脇、
一ひじのゆゑ。今歸氏毎文位人、
仍着述。一ひじのゆゑ。今歸氏毎文位人、
うする所をもそひゆつて
くらあくろぬのゆゑのひじや
にそもさりゆく。じまやのゆゑのみ
ざくらうくとけんとけんとけんと
彈エキももも、警時、亥ノ朝、一糸一表綾を書
せしとふりゆく。ゆすもちゆく
て、ゆすりゆく。是今も書く。すく

ゆきとくよ。徐祖ヨリいふ。もとと
來す。殊語アリ。嘆風俗の事。を。至
後分別の事也。トモ。物のもの。の
こと。くるもの。の事也。もとと。至
もの。もとと。いふ。こと。を。至
の事ハ。アリ。ゆきり。もとと。アリ。
ちきれ。ば。もとと。して。しら。もの。もとと。至
や。きよ。ひ。一。ひ。の。様。の。細。も
細。め。様。き。ひ。ゆ。す。裏。ひ。う。れ。舞。
勞。也。細。め。細。め。の。ま。ま。の。勞。する。也
を。花。翠。て。そ。く。す。く。そ。く。
ら。あ。と。ア。ト。
一。ひ。ま。鳴。の。や。く。花
御。い。ひ。久。屋。と。て。ち。名。の。る。祭。
ミ。立。月。ノ。諱。村。の。内。中。か。ぬ。の。着。度
する。五。か。多。祭。安。大。雨。の。け。人。少。神。

立てり。いわうちまほせられど。松
のむすめやうり。一叶の角のあ
もて花あくまてのゆ。既不取の
二のふき。ほんじはるちひちにあれば。
かねよわくきて渡りかば。被やしれ
まくとて。又御よ太上天皇の昔。御と
ありとあす。て。行舟りかくちふくゆ
心よそをまく。一葉をやまとをも
が。嘆とて。て。故あ端よ。あらと
一葉よ。うやう。うすえ。じよ。うらぎの法師。
天皇内女よ。うらう。うらうとえられて。
おやうと。御よ。え。あくとまく
一叶の大え。よ。うとの。を。う。う。こ
あれど。太上皇も。又太上皇。つ。つ。と
すれば。又。既ト。御の。あ。も。じ。ま。と
一葉。御。ゆ。も。く。と。在。七大寺

傳ふまむりきと巡りてあむらの
めほよ。うしげう娘の事。独ゆて琴い
ミーと。ぐみもとよすへきく。トモ
一ひく。かばゆく。とそつう。漢武帝
の董仲書。李丈人。貞川。湯石。

一ひく。別とく。しりて。うじりと。詠る
摺全。因信。昔人の事。うち。きりに
絶海の事。うち。それされば。うの契れ
きぬと。ごよみて。あよはなよ。あ
一ひく。まゆげの古り。あく。す
みね。ち和ね。すと。

一ひく。へとと。もひき。或設云。育。淫
女。伝。皇后。ゆきや。の財。金峯。峯山。すり
久。熙。練行者。多く。加賀。一。平。金の
後。本。山。と。年。來。の。行。業。と。廻。尚。
思。とか。り。紳。青。鬼。も。す。す。信。が。レ

す。ると。吉。津。太。帝。ゆ。び。よ。政。織。一。か
くれ。ば。紳。青。鬼。つ。づ。く。る。タ。え。そ。其
す。よ。と。う。く。灰。の。や。く。よ。成。て。消。う。
を。後。以。本。ノ。如。ク。如。く。お。な。う。す。
善。義。記。モ。ア。リ。一。ひく。妙。の。や。ち
往。を。わ。れ。よ。せ。き。

一。う。へ。人。を。そ。て。こ。ま。寒。と。そ。と。回。大。空。
窟。ま。う。と。と。く。こ。一。う。ら。ま。ま。う。か。
毎。夜。屏。金。と。そ。一。う。ら。う。一。ワ。と。金
一。ひ。く。う。よ。あ。く。き。つ。ぎ。と。と。す
游。り。う。松。也。激。急。一。ま。り。め。ん。く。に。松
宣。禪。金。の。せ。と。と。も。金。す。ま。と。つ。地
め。く。の。う。よ。不。津。と。ま。ま。ち。じ。金。

ハアハタニハナシテナリトウラモテトモアリ
尼モアレバトトモアラヌル

一うへそはまよハアドムトモアリ

一うらき、袴・大き・袴・ま一の(兵)

あドクムミカセ・ミカセ・ミカセ・

アドクムミカセ・ミカセ・ミカセ・

流り葉落行草は拘泥少れ也
一葉の御のテハ萬葉曲ハ多ノ變
一葉すくじめども之を也
一葉のひ雲霞のこじよを立。うちおと野のそ
一葉

中の豊かなまほろばと貼り年中
行年ニ委レ 一ぬよえ 四室
一ぬよえ や舍人ト 一ぬよえ
一ぬよえ カイ

ハニヤウトモアリタマニ

とおのれに
かくはうす
わざまへもさう。さていつわよゆゑい
あそとおまきのよひをうり
うちらまのくわうて 習まぢほひる

乞其子也。故曰：「子也。」

蒙古文

騒。女音櫛。ますます本を。これより
やく。かづき。一くもやう。ちで
一くもあひ。はまの。ひきの。りきの。ま。
ひまふの。あ。一くも。そく。めぐら
一くも。まの。さく。老よ。三平。轄
共。一轄。や。者。轄。轄。く。一轄。而。あ。轄。
そ。所。轄。一轄。く。も。う。る。
わ。う。い。あ。く。あ。う。び。う。う。う。ま。し。不。色。
と。され。ば。名。と。こ。も。に。く。黒。け。ね。

在の例と用ひもあまえ。アメイコ
行平用直よのまとりてまくら也。三
一車もくもやう。キドアズテ轡と
一發めくとむくらのとくふお
柳葉中翁香齋。うちみどり
氣のよこのとくつへ。繁しげりは
もぐやねば。弓のぬとくえを
一弓りうちめくとくや。娘よびとくえを
達兼の勤訓。まとかく。歸て。りて
るをうそよて。もの役と送りゆて。娘よ
未下とせあがるよて。娘あくられ。毛
うき竹とめぬ。第一のうよび。三
の終よあす本め。毛毛馬の花も
み三伝の中のくうくう

追ひてもよしすこ一多門すひらのあ
まつともい出しまる織方によくへうれ
いちらのあのつぐとてたまの國はよも
りとまづれ 一多門あう本 事
をとまほ。やとけづとを本と
う人たれめ始も年かとめ
ゆはめんたまは後春と以使て難
一枚守まくをとめりやとけりと
一毛弱きあらのすよ そく
ゆれ秋精氣へは解而猶解
一弱人わめりふくよもとめ六春
一毛毛くさき夜衣番くすくの
うあげのゆる一物云内向う人のもと
てとくと 一多門國史ニ
美和七年四月八日請律師傳行木
清歸位靜安於清淨處始行灌佛事
一毛弱き幕師をどめやうじにあらう
石室のうちのまくととく
一毛弱きとぞつと 搞と罪とを重
ゆふとをとすと。源氏とが神いたと。
一毛の御ハとがまノ御と御初下ノ社
えめと。宣化二年十一月十九連
ありて。かなむととくされやうりねじめ度
くまのゆまくらんとまくはあ
とまくわづ
一毛弱き御神と服のす。封もくよじめ
春のるまく神と一毛弱き御神事

多事とくもうとよもじり
一 うらうらく 服者ハ信序とも 錦
と切きれてからまますし 信序のるハ日
月のえよもあらうすとし 礼記 同聲篇
癡苦 桃環哀歌くせ士ニヤ

一 うれきみてハ うらうら わ女のうけを
われば名をむけると 高づみうと
りそくも
一 いとあと うひ
王也 仙人をみのとれやとめのゆにすどる
めおへやとし 一 うらつゝ うそ 勢
も。おもむきゆき 一 うらと うらめの
のあくのうまわ うらのうら
一 うらんぢゆよ 表ねぐら うらとみゆをと
一 うらのうらひよ 經信する人のまく
雪月急鷹巣為人所喜り 漢書
匪民也あふ也 一 うらうち 勵辭

古今集の作者
古事記の著者
一 うち五ぞの 五灰橋本 拙るに
おもるあるのこくをうてとく
一 うらのうらひ あはハ多ひのぬとぞ
一 そのうらひ 携行ハキのうらを飛
はわらひ。まともにまか。飛はるもえひ
まくもうり

漢氏自業也五

一 やへどもく 金上本とのゑく上く

まくもくと甚ひはほする人のまく
とくぬれらればましくあまくひうり
一 楊本毛毛はとひやへくめくら。やへ
くねくね 一 やまくまく。和爾の
おく。日本のおくのと。あく。わまと
おくにこせきく。とくとくとだくと

少翁御史ノキ。秋山の事多きとてそ
りも少く。そりてこそ多ふ。累々
一やうづとよづ。一やくとも丈とて復
ふきよき。
一やくとも丈の御事
のめあつし。すこし一やうづの事と
もうかとざれ。ね落葉落葉ハ向社。
河童落葉ハ八幡円社。多摩川の御事
神功皇后也。一御のそら也。御
西白ク。裏青シ。多くの花とま
一やうづにくわあ。花とま
わくそうすくまをわく。ほとま
一やうづに。落葉一やく。和琴
のぬぬ落葉し。されば落葉ては。と和琴乃
くちうるや。又きてづくれ。和琴人
絶六すらわく。一やくあるをどもえ
有翁。幼言。下く。予若と歌す。

一やうづとよづ。一やくとも丈
とよき。すよとよぞ。一御のト。すみ。既同。
きすよとよぞ。ト襲のと。は。既
じすよとよぞ。一答。ト。襲のと。は。既
じすよとよぞ。一答。ト。襲のと。は。既
じすよとよぞ。一答。ト。襲のと。は。既
じすよとよぞ。一答。ト。襲のと。は。既
じすよとよぞ。史記曰。楚有養由基者。善射者也。去柳
葉百步而射。百發而百中。右觀者數千人。皆曰。子射
一石ある。すり。竹の。と。か。ま。障。す
祭。卒人竹。文。青。櫛。袍。蒲。苟。溝。下
襲。地。櫛。襪。合。襪。陰。櫛。櫻。櫛。文。青
櫛。袍。櫛。色。下。築。白。縫。襪。合。大。口。青
櫛。車。脣。櫛。御。御。草。各。用。付。云
吳。の。づ。き。東。西。の。お。事。が。す。や

一柳とひづりてつらゝし河楊柳と
白きふじて略ひ草のむと青き
ちよづきとす。一切の處の山あゆ
庭の山月に。あらえ貞儀記主と
立くそれと杜陵のきとにさざくら
初て歌れ

一柳の氣とまよ
笛をのろちあとの音よづく

一柳のキヅカヒと山風うら夜露き
さくさやわとり。もくすれ人へどが
そよぎの山影うちとさくうりび
一やうじやみ 暮とよひやうじ
一山のあらわらよぎの聲でさくめぬ
一やうじとばやれど一山風えくすくを
鶴の鳴かす。霞を一山のよきくと
霞をよしはくのうのむちがねあつあ
くわ。かにさくとりを一山のよきく霞

一山のよきく。やあくさんとれ。ちあく
ぐれよりひよじよ。またすまよ
わらわわき。あよくわよううるえ
よみよや 一やうじやみ 暮

きよ日暮えひよくとくとく
一やうじやみ 暮やうじよくらをとくと
す。一やうじわーぐくよくのとせせ
のとくとく事よ。やドリキニ
一やみよくあはせ。一やうじ本 あゆの
あとさひむく。一やうじよくとせ
彼事もゆわれどよとせの句

一やうじのやうはあく秋のはやくつ
つて。あく年三月よかせはうくわ
黄はいあキド。だくとけあり。うよはあ
鶴の歌す。あああに。うよくまく
ほうきすりあり。不審うき

一まひくまよどと一まうぐくぐふ
ぬ脇わくうへどを一ねうきのむあく
貢わ彰顯寒トテラお宮も洞
ざ。おの村のあめり一まくあけつ。樂
を期じて万年の四則と取し。またも
歌す入まえ。あらあらのたとづくどこ
一まどやさくらの向ふ。生まへ母
あまを。娘やあしてわれば。三月の脇
と。一鹿ゆき。滌肺の後め。さうぐ
うするを。おとめ。すまぐ
との白猿。うそく松ま梅。梅。うそく
あらうぬと。一まうつ。まくづ
だく。やのうち。うくらもあくへと
一まうの。ね。新と。りくらへ。か義乃
まくのと。一まうづ。いみご
ひをすると。一まくをうづく

迷あよち邊歌枕穠 白雲天

一まうてあらくまうめ。ぐく。ぐく。
くのわうじうり。きどすと。す。
あらうに。うて。ほのふよ。戻るうて
もあり。うと。一まく。あれて。うと
まを。公。役。まく。と。鈴。まく。瞳。め。ぐる
き。摩。瓦。那。記。一まく。くれ。る。うと
り。く。まの。う。の。む。う。ま。う。と。う。と。う
れ。る。と。と。 一まく。ぬ。日。本。記
一まく。う。ま。て。う。う。じ。ち。ま。監。ぐ。く。
一まく。ま。く。朝。キ。一まく。す。く。う。く。う
す。く。う。西。え。か。う。踏。う。日。參。起。起
サ。フ。ト。ラ。ジ。唱。万。春。あ。我。皇。近。神。伝。仙。翁。
百。壽。あ。え。を。お。岸。年。支。靈。催。萬。事。
夢。多。代。今。葉。万。春。あ。ハ。づ。ハ。白。の。翁。
あ。翁。う。今。葉。万。春。あ。ハ。づ。ハ。白。の。翁。
し。翁。と。漢。を。る。い。う。う。り。で。匂。じ。の。翁。

「まよふのうしもとをひがみのちに
あゆえりよりきて、黒いよ御さん
まくじるまきのにやもの本さる、大旨こ
摩、ヤビルニヤ十
摩討、盧麌那」との大りと

一
三
四

蒙古語

卷之三

木のやうあるこそ

一
わのあくよ
をのうへそぞれ

まゆづまとうり。わがま

蒙古文

一あくようや
時々モモ打
肩

蒲公英
日光
青壁

著者　雨打室春
ワツキウ
著者集

アラタニヒコトハ
アラタニヒコトハ
アラタニヒコトハ
アラタニヒコトハ

客歸をす方來遣秋鬱文傳より
見て。武臣=弘文侍。・チニムニヤア
ちがひ。是ハ多の玉衣と云ふ者。御
の堅ケヌラトリウチムシ大蟲曰。れ。
はいの者トハ。物ノミヨの者トモ。えの玉衣。
着用よ。候るを。一ケヤクレシテキマス。
多サハ。身のキ。男のキとをきじて。の
既と望て。いわ。・やのやよ。づく。み
けり。・と。・と。・と。・と。・と。・と。・と。
と。・并のが。・い。・と。・と。・と。・と。・と。
と。・と。・と。・と。・と。・と。・と。・と。
年。・よ。・げ。・ほ。・あ。・と。・や。・の。・ゆ。・
き。・き。・き。・花。・け。・め。・近。・ち。・る。・と。・リ。・く。・く。・空。
ひ。・と。・け。・年。・多。・シ。・年。・も。・と。・リ。・く。・く。・空。
あ。・べ。・レ。・け。・う。・む。・す。・り。・く。・く。
一。・腰。・の。・う。・ら。・つ。・く。・空。・

此のむづくはよめのすりへ春日神
の心とくあまこと近ひ一ひそか鐘懸うご
一ひそしのやくら 壁ノ菩薩ハ解ス
きみ詔も勢至のを一ひよめうゆいに
ク、タモだまのゆよ。もとしづよが
一あくみわあ、こちとよとが
みて。我のくやうくせとあめとほあさ
一源ゆゆうまゆゆきのう。竹川の聲
わきや。又稚がとよ。ゆゆきよゆゆく
あり、まや風のけふ、ア、名和行ば稚
印。叶もとくまくとげるまくまく
混亂すべくよきの年教り。物のあ
もとせづらよきのまふよまくまく
月華のみのよき一ひそか 竹川
助^ヒ是 晓貯^{ナカヤウ}代のて。又現^{カニ}代しげく
暮^{ヨシ}の

者もまわよまうすゆとうり。御衣テラキウ
きとんとも熱モカヒの氣モカヒし。加氣カキとくらり。舊カミナリ
よ云カクシ。かくさのうひごぬと。をほそひぬる
御門モスミ。すみゆくよ。中コトハあふれ
うしおと有アリ。手ハシそくとくとくを
あわせ半ハーフ身シル。がくかく。うする
花詩ハナシと放漫ハラハラする時ヒメ。夜ヨ常ノに笑ハジケル
文墨モノガタリとうりて。山ヤマよく。文人モンゴロイや
ハ隣ハザシ下トトロよすく。めぐら。後ハシウ頃ハシウすく
一筆ヒサシえく。かみ花カミハナめりやけどと
き。すく。たちの事ハタツして。ある
のまき。又天厲三年四月十二日承旨
舍石カミイシ花カミハナ。和ハグ。後ハシウ詔ハシウあり
一あそり。うす不祥フシヤウ。そく。くわ
くわ。一かく。松マツに氣ヒ。
も根ル。唐本多分ヒラスイノ。琵琶ヒラバ。金衣キンカイ。寒カドアリ
一文主モニシマのよ。主シマのゆ。史記シキ。魯
聖家セイカ。周シマ。能モハ。紹モハ。よき。歴主モニシマ。何
とくのあり。とすく。しとく。歴主モニシマ。主シマ
周堂シマドウの主位シマシマのゆ。のゆ。歴主モニシマ。
のゆ。のゆ。歴主モニシマのゆ。其ヒよ。の
御傳モハ。をすく。今ヒマの傳モハ。あづまる。
其ヒよ。朱雀院スカイエンのゆ。のゆ。歴主モニシマの
御傳モハ。付モハ。お達モハ。アリ。上ヒマ
のゆ。のゆ。とつり。とつり。とつり。とつり。承
文主モニシマ。文主モニシマ。承主モニシマ。御傳モハ
於モハ天下モハ。敢モハ不モハ。傳モハ。矣

一文集 白天の詩賦をあつめりし。

セ十二卷有。モ多文集ある云。

一卷のつまき 在勅石書司ニ

參唯仰御申候奉良く万のみ礼

書司則歎極矣琴良く万のみ礼

今葉地合の後よハ必ウ色あり。書司

ハ書友の名と。和班とつまきじるに。り。

智子とやがて文のつまきじるに。ち

サハナタのはーにづらむがたし

一卷のつまきじるよの琴をもさえつ

とうり。方のゆゑにて琴をひきあさき

い。涙もまく人あじとくわたり

一卷の書坐鏡一似天のうげワキと

く奏一とし 一とつけられと大

やうよと。咲カとづるする

一卷のあいもすととん向子期思舊

一卷のあいもすととん向子期思舊

ととくととくととくととくととくと

すとくとくとくとくとくとくとくと

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

すとくとくとくとくとくとくとくとく

儒の教とし 一をもどりむる

聖太也下布綻と内裏にうづ
みし灌化の布綻より有ハ綻と用

とと中ばうち紙よめし

一をもどりくらむるあまきよめし

解表六佐袍よそくら

一を衣ふもすやつれあ

うちのものよ 奥へよ。いすと不屈

うちあひ御ひ候り。と承うの候有と

宿て丁有とまう一をりすよがだり

誇し。河海琴比謫のす様あり疊く

一えどもてゆゑと封一教る。新

著者の物と 一をりくまうせ三居

あうても四ヶ年二をもとひくま

は伏のまづもうよ。せ三のまくすが

終止と 一をりくまひ

かよ。文よ約をもくらむと

一をん行よすきどり 相本多のうれ

くく。見よの是よそてアラモタれど。

ことうく。アハ妙し音律ハ高声の

相子よ行て皆つまつこ。まご

一三三日 うちもうとくじづ

一をく。おはく。はく。はく。唐傳

一をく。おはく。はく。はく。唐傳

一をく。おはく。はく。はく。唐傳

一をく。おはく。はく。はく。唐傳

ひよしとすめゆき。がのりづくと
五音とまくと 一ふみま ま雲^{フヨウ}不^{フタツ}
トあらかじゆと 一か月のほみのや
まくとせしのひもとまくと
一か月のと ねうぐみとまくと
まくとまくと ま^{フタツ}一か月不幸

ニ
一 まうるふ
一 うすあつせん ひづみ くちきめのわくせん
一 まくまく ばくがほせ 一 ほくまく まくまく
あくまく れば 考の果よちくまく
一 まくじく こまく 一 まくじく こまく
一 まくまく つづるやうに まくまく
ト まくまく 一 まくまく ト
が なむく が はく と あくは はく と あくは
一 まくまく 言 程 一 あく と まくまく
一 まくまく が はく と あくは はく と あくは

一三あまて 岛の字し大やうの柳
一やざまきやうを一こまとい。もく
よつぎとつちせき一だら 墓延御
良女のお地を 一三人ののりやう
つるみとちくみへりのとんやう
中ののゆきのとつひあくとくう
一ふくらはらづくしやまと兵
一やくわやとまことまくわく
一やのゆ。紙つきをもくとがえや
りそであつろ。くわわす。残そ
ゑれはまよかくとくわやーれ
そくわられへ。ねくまのゆ
一トわれぞ けりハシモキのと
くくわれき 一ぐわらばさう
やくくねらへ。家の暑れじわ
らわめ。暑れどもや

一九日はえん定ゆあすへ天皇聖鑿よ
萬葉をく。内牛か年^{ナニ}草あり
文^{ミツ}博士をめく。是とすじめて。
名龍のゆとまざりて。酒と作て海
すすりあり 一在島のと。蟲
そそを鳥とみく。一とくを絹^{シス}博
志^{シス}を^{シス}造^{シス}圓^{シス}鑿^{シス}一とくあやひと
女房のぬ^{シス}朱^{シス}。肩^{シス}ある。うへてしろ
ひよりくまむ。じくくまむ。ごくや
ひうちくまむ。一タ^{シス}みとみよみ
深^{シス}くまむ。一タ^{シス}みとみよみ
えくまむ。一タ^{シス}みとみよみ
一このまか。ぬ^{シス}とまよ生^{シス}のと
くあてよ。充^{シス}たがへ女のつけ方^{シス}よだよ

其八年の宵より宿へ多めりとて。
索のあよをもと擇て、又は襖のすき。
則は萬年の節にさへあるが、これと二
方の役とくよみて中の酒の自家焼、
社へ多めで、ありよむと。毎年の
宿へ必ず年日されと候すと。宿
一月もあとよびのう。宿の多きの
うわるえ。一月もよつてか
く人やし。三秋赤吹之傷也。
御門之天罰備依り。情出事也。
之恨遺。御は。よきよつて
仰くやし。一めしのよや
譲摩半壇。御法。激。庫茶利。
大威。金剛。中央不動

一ふく人の日法事。一ふく。狗取
細れ。細有。うちだいし。狂歌よみ

たゞくまきど。一のみ家はあらざ
掲名めまはす。のまかめあらぬ
三人の内徳。され。又一人へつづくよ
ほす。二人へのり。ちと別のタクヤの
タクヤも。一かばられ。に岩
のゆきくみゆき。一と巣の中ぬとす
ば。相あら。がちにあの時と年あらず
ゆく。それと行く。情テのち後と
ア。あらわゆ。一ごく。諸身。若
祈禱し。

傍かせの。撫。三年。じと。と
えくらしの。す。金剛。み。金剛。わらう
ま。ハ。元。身。資。財。修。善。め。よ。ら。り
えんそり。け。体。福。瑞。金。劫。豊
キ。布。施。の。よ。修。と。若。と。う。あり。
葉。ゆ。江。不。知。る。是。強。の。地。こ。葉。ゆ。の

壺と竹製の通和音をもつ

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

猪ものすよ。くじくちを
一もまのむらりつ行のゆいりやしる
竹のゆよかひゆれはゆ
一もまのあづく。飛鳥御除日賀文移
讀文書月出八佐下巨勢経良相見
嘉尚昌泰ニ二月陰同執事下時乎
一也承きくらまげきりく主上の
坐すと天德哥合と模モモチ吉來
御内官膳局事例。正子内詔
傳令のす。は務毛ニシテ内詔を修定
ト約クシム。この革よしきとてやら
タ多すわら始モ一もまのうとて舞
人をひつて云び。そよへとくもひ聲を
太齋の妻代トモカク一もまの院
トハ太齋の門下にすとくやく
一もまの夫トモリウのアラモのつくよも

花鳥よ妻。棲霞^{アカガハ}に^{シテ}一^ヒて。棲霞^{アカガハ}
ハ、駢^ルノ^シ事^ハはよちよめり。清涼^{アラタニ}東
東の^{シタ}改^メキと。法務^{トク}人^{ヒト}齋然^{アラタニ}。
斎堂^{アラタニ}達^シミ^シ。一^ヒモ^リト^シ。
也^ハ身^レ教^ス。されと羽^{アシカ}と^シ。
空^{スケ}み^ハ仰^ギく^シ。う^シ付^シ。尋^{アラタニ}。
無^シ爲^ムもの枚^シも^サ。う^シら^シ。
佛^ハりん^シ。う^シせ^シ。ま^チ聲^シ。
一^ヒも^づの^シも^ソ。う^シめ^ハみ^ハ。
花^{アマ}今^シ衆^シ物^シ。と^シい^ハ近^シの^シ多^シ。
や^ハ要^ハ也^ハ。を^シし^ルゆ^シ。御^ス。
シ^シに^シ事^ハも^シ府^シ。う^シも^シす^シ。
そ^シに^シより^テも^シ。案^シか^シ。案^シの^シの^シ。
羽^{アマ}林^シ。色^シの^シ多^シ。う^シぐ^シく^シ。
わ^シの^シ近^シ。求^シみ^シ。詔^シが^シ年^シ。う^シす^シ。
と^シも^シ也^ハ。陪^シす^シ府^シの^シ。有^シ。

ゆと用る加高後もまよを乗せり
し信從ハ和矣。もう、て當とぞ壁
一うれやりき。きくわざりにしき。
一あちのいまくら。大波云。
三多院の内時。所よしとくわざ
ひる。のむりはちのもの。乃はよしとくわざ
きうちなれば。又えどもと勝ちぬ方主
一鷹ととくま。史記。明君。劉明文。等
一虫群をすりぬ。ほのまつをうへておみ
に。惟光もあまし。栗園。源氏
ハ虫のよしや。一部をあしとす。おも
くろ人にさむ。ふか。又まれいへ。
用ひ。くそ。まと四神の。萬目。是
一まけぞ。うきうき。いふ。前
一まよ。あまきの。おも。行そと会

詩歸のつまみに付すに就て
一 まつろ 群反 万葉をて云が美が筆を
一 あくびもつとまく人へゆきひ大真
人へ齊よやドのと一もひく身力に咲
えりほの自見、うききらめくわざ
のひくよるまのうんととく文ひくも
一 あくびのやすひ、うききらめくのひく
りうきのぬのト、うききらめくと
ぞいきやくらめくのまゆ
一 くわき 群反 暁に ねぎ
一 まちやうひあ一もひくうりた
一 あくびもく あくびの器皆寝御本義
いの山よいぐのくわれ花今葉
れのくわくらめくは昔より字みと
れだ内へてくわくらめくまのとくと

本支豆よ秀 一ひのまくらをひ
まちとどく うわゆきもんじよと
一ひまゆねば 桜まほげやれのたま
てのあめぬあめ 一ひとていもと 宝
くわくわくとまわく びくわくわく
りやくと本 もあり さる三役あ
きら うめく ほ先 あらう うきま
一ひまくら けい 一ひく
けいくをり や 一ひく
ひのつやさん いのえ おはな
あひのト がみうき うひ か
え佛とりゆせき 一ひまくのすけ おは
のつけ おはく 二ひを うめく おは
のくとらふくと 一ひく ひくまくの
うのやく うり 絹の唐佛のむき
あるまくらへ せくまくわく

一
ひむけむけとて、よの葉吹ふよ。強
風もあらず。やまとて吹らせ
たゞしきと音羽の曲のと
一
こまのくせり、はなわくよくさう
紙づくづくくく。
一
おまえ等、岸にて、歌をひき連々
一
いわゆる、いじ
一
こゑつゝのは、がく氣をもむる事は
一
き事ひと用うて、あせとあくを
一
よのれの行幸、咲き、まめとくふ。お春
よ
一
あるひの内、二かねり、あるひ
あるをよし、よしりてほしとつみを
一
よの轡、轡をあがへ、うちねぬ枝
一
まのうちへ、かうこゆくまに舞、松葉に舞

ひるは年のもとよ舞ひしたの事い廢
右のあらむ舞、一ふくまづかひを
せ三の舞とてすせば何んてねんく
とちくとく
ト、一み圓よつてゆう
ト、花^{シダ}先奉天皇も、文武天皇も彈琴^{レレ}
ゆまう、尋うゆのソノケモリとまう
一ぐれきへまくまいるのとくまよき。
河一ニハ 檜^{カク}千^チニハ^{カタリ}山^{マツ}三ニト水^{スイ}石^{カワ}
四ニハ茶^{カラム}山^{カム}五ニハ鷹^{アシカ}鳴^{ヒナガ}行^ス
一五^ハのりと今^ハの事^ハ、事^ハ内^{ヒテ}よき。
何百秋^ハ生立^ハ病^ハ難^ハ、より破^ハよりつ^ハ、
あよも^ハの破^ハ等^トと^ハも、わ^ハの破^ハ
心^ハの破^ハ等^トと^ハも、

一心ゆきひをく ゆめもりづく 次心ニ
一心ゆきひをく ゆめもりづく 次心ニ
一心ゆきひをく ゆめもりづく ハ 共説云少翁
事外得福天取平大將福至徳事
一びいぐる 勢生利益 邵縉 五語

食べ
早からぬれば必ず天下をもて軍をも
一、^奇みまつ、のちよ ありよとそ
うり。又のみまつうがま服をくすのみよ
ううとゆきよのうり 烈カタのあと
ちねえへ 一、うとうへ
枚ごとくめけうへうのねよへ
きりくねよくへとこ。あらわの御よへ
抱本ヤハキうへうへ 一、みまつよよ
みよし。房主あるのウタヒい。摶の
もよひげんよ邊カミそのとたまへ
摶のうれすへうへ。房主よ見よじき

あめよとて、前仰カウ。鐘ビドウを期シキして、テ
友ヨシをもとモトへ。鐘ビドウを期シキして、
後アフタ。伯ハタケのう。今イマよりは我ワタクシを
中ナカに者モノまメ。されば、とてやま

之を仰て傳とねり。四
毛乃ガアツラ
モハシキ。

一 声よてゝる。甲ノ掌に付の丸ノ參
ニ柏木の聲もさう一されば、ワニゆで
やまと麿^{サツラ}まといおまきとひきを、
名方氣^{カタヒ}のうみと一されまくらまくら

わくわくへんよ はい ねままで ひらほ
タヌキの まこと 一 うそり あ う
月の夕 五 もや お月を てすまふ

故人今
一念之
行將何
奈

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

卷之二

「アラタニイハシナリ」
「アラタニイハシナリ」

アリス オホホのララ、ラララ
ビ ハー バチタク

三月十四日
琵琶は橋の下
と波船の上に向へ
李錦琵琶
琴云室内外法上
一之ひりびてゐる

うるをめぐらすのまゝに
美ひをなすものあつたまゝ
一いきへてあはれ
未だまことにあればうる

一みをひくと 箱と うそり
一みを一枚やすす カエリキ 開也
鷺遊 洗析 一枚事 リ 聞
一みをく 奴教 うつねうづこまき
一みをく ては うら カガラ
一のじとう いは 一裡り うまに交りて
き。彼の手のねうらめし。手のあくべて
れ。手も着物と付ふるを含り
一ひねりよし。毛姫。ハ。玉照君と盈君
者照古貪ふくもくめ。含まもして
くもあくもくもくもくもくもくもくもく
一もよ 蘿。難きく一役よもゆき
一の少東。や 一ごてのせよくや
も。春とさうけぬの洋貨の巻。あれ
一ひねづりわ。りよく。人のハ。地
一みうてへ。ち。寄進の。およ。送りう
一

松竹草子 一葉 けい方
ほきやうきと うせどん 権記
行歎。壬辰五年十月九日於山陰
贊。牛乳梅檀。前
一みをくと 金。くらひを
絆をか。金。一葉
一心。うと ちゆき。うと
一くらひを ひよどり。わ
一くらひを あわせ。わ
一けい方。我
一くらひを 忽。む

一ひねり
一ひねり えよみ。一ひねりほくと
一ひねり。怨。ひ。一えくよ。怨。ひ
一えくよ。怨。ひ。され。怨。ひ。怨。ひ
ゆらゆら。ほくと。怨。ひ。怨。ひ。怨。ひ

一えひまげて きく断て さしもうちきや房
きよすとうり 一えひのうけびと
うち、又妙めの妙みく、仕うけびとすみ
と河衣被書 一えひをめ蒲萄と
はまくこまみまを一えひうどくまく
年のもとすとあら、他曲のよめ、青霞
の處す海のう委 一えひまくまゆ
縁ハ冠のう、着服の人妻 冠錦
一えひのうじの胸白玉天が冠錦 左邊
りて、三月贈ふ東薄とあよ側て、祥
徴えよ引一付作り詩のわし 醉也
瀧渡春益襄吟苦ぢ又頤曉鶴前
一近秋のひよりりりつて下る草花
あやくまのびよりりゆりて、毫毛
のせうこうれつてよううしてゆれど、
四名づくの草ハ、薄葉の雨門づくはう
一うちよ 絶じと

て
一てぐうゆの草下 草のす絶じと
け草車ハ、石階のるま門づくのうち中の
草と文のめしや、金の草車と云。

牛車ハキのまわらすのでのと。先
今案温明殿後廊をもみゆ中の
の門内のもく。温明殿ハ圓形本丸
ます後、東の玄関門のまにあり。
後常夏ハ西の御門のぬるあり。ば
米のぬる。まくらうそくよりどう
まくらしきの衣えのびうしと。かよ
ううきをきて。上づがのぬあつまと
ゑくへり。延びがぬよまくらむ。初
は藤籠のうらをうぢうとうり。也
のくわひけたり。又玄衛陣とよぶ
中のまの門のみし。園門といふ。中の
まの門とよもうち。新苑役。ま
ちうの車。うらへらつまくて。どみが
うみき車。いぬねだ。御とどめ。六
和のまとのやうでうまくせひたこ

一ノ二ノ御方 一亨子後室奉は皇
のぬり。御方の文門宇。その帝とそ
とし。修とく。セウサウケ。さくす
セイ。白雲とく。とく。とく。とく。
地のゆうとく。のゆうとく。とく。とく。
亨子院のゆうとく。とく。とく。とく。
修繕集。よのく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
天地とく。とく。とく。とく。とく。
一天。もし。とく。とく。とく。とく。とく。
天より。とく。とく。とく。とく。とく。
まくら。とく。とく。とく。とく。とく。

よ天よまくすあり 明天の歌をう
一天のまく 天歌 一天ごんかどもりに
天ふきまくじまくとまくとし
一鳴るワハ久きのひよ年也を
ありひれりらるゝ音の則無レトモ
一打へまくて 童の舞すすめを
一打あく 三ツともと乃六つう
一聲上ぐハキスのわ春
まのうすまく 花ゑどぐべとあられ
きづば波のを上ぐあまのをとぐ
きよて、もあぐよゆきよれて、昇が
下りまく、あづくまくとくも
りむく。ほくへ昇がくも
よ。やあくまくは昇がくも
あくの歌よえくまくのうみぬまく
さく

午後ノよそへ、と、言ふ不^ズ出^サそ。
キテ^テも^テと^テと^テ
一天人のあ^アク^アく^アゆる、^アや^アん^アと^ア竹^ア
の^アみ^アう^アく^アく^アる^アよ^アあ^アの^アや^アし^アり^ア
ミハ^{ミハ}月ナ^ナ夜^ナよ^ナ天^ナよ^ナの^ナり^ナし^ナ
一^ア天^ア地^アト^アう^ア天^アの^ア名^ア本^ア名^ア
用^アあ^ア。天^ア之^ア靈^アの^ア教^アよ^アう

